

中学校第 1 学年音楽科学習指導案

日時 平成 2 5 年 月 日 ()

指導者 教諭 彌永有香

1 題材名「箏の特徴をとらえ、箏曲のよさを味わいながら鑑賞や演奏をしよう」

(教材「六段の調べ」、「さくら さくら」)

2 題材について

(1) ねらいについて

「中学校学習指導要領」には、我が国の伝統的な音楽文化のよさに気付き、尊重しようとする態度を育成するためには、実際に和楽器を活用した活動を通して、我が国や郷土の伝統音楽を体験することがきわめて大切であるとして、3 学年間を通じて、1 種類以上を用いるようにすることと示されている。また和楽器を用いる際、学校や生徒の実態に応じることや歌唱や創作、鑑賞との関連を図りながら進めていくことが大切であると示されている。

箏は、音を容易に出すことができる楽器であり、様々な奏法の工夫によって豊かな表現がしやすいという特徴がある。その音色や余韻、平調子の五音音階は、日本的な情景と結びつきやすく、生徒がイメージする情景を表現しやすいと思われる。箏の持つ楽器の特徴を生かすと、伝統的な楽曲の演奏でも、自分の考えを音楽で表現していく楽しさを味わえるのではないかと考えた。また、友とその表現を認め合ったり、友のよさを自分に生かしたりして、共感し合うことを通して、自分の表現のよさを知り、思い切った表現につながると思われる。基本奏法を学習した上で自分の思いやイメージを音にのせ、表現の工夫ができる楽曲を用いて、自ら表現を考えたり工夫したりして、表現できる生徒の姿を願って、本題材を設定した。

(2) 児童の実態について

(3) 指導にあたって

- 3 つの箏を比較したり、演奏や創作、鑑賞との関連を図りながらより深く和楽器の魅力を味わうことができるようにしたい。
- 抵抗なく箏の演奏ができるように、ICT を活用し、構え方や奏法などを一つ一つ確認しながら学習を進めたい。
- 自分が表したい思いやイメージをどのような音色、奏法などで演奏するかを考え、自分なりの工夫が加わった「My さくら」が創作できるようにしたい。
- 個別に指導したり、グループでアドバイスし合ったりして、基礎的な箏の技能が身につけられるようにしたい。

ICT 活用のポイント

① 教師の活用

- ・ 3 つの箏の映像を拡大して見せたり、箏の基本奏法をスクリーンに映したりして箏の特徴や奏法をとらえられるようにする。

② 教師の活用

- ・ 表現の工夫を書き込んだ楽譜などをスクリーンに拡大して映し、考えや書き方を全体で共有できるようにする。

3 単元の目標

日本の箏をアジア地域の諸民族の楽器と比較するなどしてその特徴をとらえ、音色、旋律、速度などを知覚・感受しながら、「六段の調」を鑑賞したり、「さくら」を創意工夫して演奏したりする。

4 単元の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
① 箏の音色や奏法、「六段の調」の音楽的な特徴や曲想などに関心をもって、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 ② 箏の音色、奏法による旋律、間や速度の変化などの特徴に関心をもち、音楽表現を工夫して演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	① 箏の音色、奏法による旋律、間や速度の変化などを知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら「さくら」の曲想を感じ取って、箏の特徴をとらえた音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	① 「さくら」の旋律を演奏する技能、及び箏の特徴をとらえ、箏の音色、奏法による旋律、間や速度の変化などから生み出される曲想を大切に表現する技能を身につけている。	① 音色、旋律などを知覚・感受しながら、箏の特徴をアジア地域の諸民族の楽器と比較するなどしてとらえ、よさなどを味わって聴いている。 ② 「六段の調」の音楽を形づくっている音色、速度、旋律を知覚し、特質や雰囲気を感じながら、要素や構造と曲想のかかわりを感じ取り、箏曲のよさや美しさを味わって聴いている。

5 指導計画及び評価基準（4時間取扱い）

時	学習活動	指導上の留意事項	関	創 工	技	鑑	評価基準・評価方法
1 本 時	○クージョン、カヤグム、日本の箏の演奏を聴き、楽器の構造や構え方、音色や響き、奏法による旋律、よさや味わいなどを感じ取る。 ○箏の構造や調弦について知る。 ○箏の楽譜や初歩的な奏法を身に付け「さくらさくら」の旋律を奏でる。	・ 3つの国の箏を比較して聴き、共通点や相違点、それぞれの箏のよさを見つけられるような学習シートを工夫する。 ・ 初歩的な奏法を確認して演奏できるようにする。				○	鑑①音色、旋律などを知覚・感受しながら、箏の特徴をアジア地域の諸民族の楽器と比較するなどしてとらえ、よさなどを味わって聴いている。 【学習シートの記述及び発表】
2	○箏の様々な奏法に着目して「六段の調べ」を聴	・ 1回目は、箏の音色や奏法が理解できるように	○				関①箏の音色や奏法、「六段の調」の音楽的

	いたり、唱歌を唱えたりして奏法と雰囲気とのかかわりについて感じ取る。 ○「六段の調」の全曲を鑑賞し、この曲や箏の魅力について自分の言葉でまとめる。	抜粋して鑑賞し、2回目は等して聴き、学習したことをもとに、曲や箏の魅力はどんなところかを自分のことばでまとめられるようにする。				な特徴や曲想などに関心をもって、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 【観察、学習シート】 ○鑑②「六段の調」の音楽を形づくっている音色、速度、旋律を知覚し、特質や雰囲気を感じ取りながら、要素や構造と曲想のかかわりを感じ取り、箏曲のよさや美しさを味わって聴いている。【学習シート（批評文）】
3	○これまでの学習を振り返り、「さくら」の旋律を基にして、その旋律に様々な奏法による装飾を加えて奏でてみる。 ○イメージを膨らませて「さくら」の曲想を感じ取りながら、箏の音色や奏法による旋律装飾、間や速度の変化などを生かした表現を工夫する。	・様々なさくらの画像を提示したり、箏を奏でながら試行錯誤したりして、思いやイメージと奏法が生み出す音楽の雰囲気を結び付けることができるようにする。	○		○	関②箏の音色、奏法による旋律、間や速度の変化などの特徴に関心をもち、音楽表現を工夫して演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 創①箏の音色、奏法による旋律、間や速度の変化などを知覚し、「さくら」の曲想を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。【学習シート（楽譜）】
4	「さくら」の旋律を基にしてその旋律に様々な奏法による装飾を加えた「my さくら」の表現意図を考え、演奏するために必要な基礎的な技能を確認しながら演奏する	・さくらの旋律を演奏する技能、自分の選んだ奏法を演奏する技能、曲想を大切に表現する技能について、グループでアドバイスし合いながら演奏できるようにする。			○	技①「さくら」の旋律を演奏する技能、及び箏の特徴をとらえ、箏の音色、奏法による旋律、間や速度の変化などから生み出される曲想を大切に表現する技能を身につけている。

6 本時の展開

(1) 目標 3つの箏を比較しながら、それぞれの箏の構造や奏法、音色などの特徴をとらえて鑑賞する。

(2) 展開

過程	学習活動、主な発問 (T) 予想される児童の反応 (C)	指導上の留意点・評価	備考 ICT 活用
導入 3分	1 学習課題について知る。 (T) 箏について学習します。 (C) どんな音がするのだろう。弾いてみたいな。 めあて それぞれの箏の音色や奏法などの特徴を感じ取ろう	○実物の箏を用意したり、箏を演奏している画像などを準備し、箏の学習への意欲が高まるような環境にする。	箏 プロジェクタ PC
展開 44分	2 3つの箏の演奏を聴く。 (T) 3つの国の箏を比較して聴き、共通点や相違点、それぞれの箏のよさを見つけよう。 (C) カヤグムは音がはねた感じ。箏は落ち着いた感じの音色で心がなごむ。 (C) 押したり引いたりする奏法があるな。 【言語活動】 (設定の意図) ペアや全体で、感じ取ったことを交流し、共通点、相違点、よさなどを共有する。	能動型学習 (ポイント) ・相違点や共通点を見つけながら、音色や響き、旋律や奏法、よさや味わいと結びつけて学習シートに書き込むことができるようにする。 ◆鑑賞 (学習シート) B基準 3つの箏の音楽について、箏の音色、奏法による旋律、よさや味わいのそれぞれに触れて、感じ取ったことや考えたことを書いている。 A基準 3つの箏の共通点や相違点を十分に意識し、音色、奏法、旋律、よさや味わいを適切にかかわらせながら自分の感じ取ったことや考えたことを書いている。 <B基準に達していない生徒への手立て> ○友達の助言を参考にして、自分なりの言葉で表すことができるようにする。	箏 プロジェクタ PC 学習シート
	3 箏の構造、調弦 (音階) などについて知る。	徹底指導 (ポイント) ・箏の構造や、平調子の音階について画像や映像を使って理解できるようにする。	箏 プロジェクタ PC
	4 「さくら」を歌唱し、旋律や間、雰囲気などを感じ取る。	○曲の雰囲気を感じ取って歌うことができるように、「さくら」の演奏をCDで聴いた後に歌う。	
	5 箏の楽譜について知り、「さくらさくら」の旋律を奏でる。	○生徒に配布したものと同じ楽譜をスクリーンに拡大して提示しておく。 ○三人組になり、抵抗なく箏の演奏ができるように、基本的な構え型、座り方、初歩的な奏法については一つずつ拡大して提示しながら確認していく。	「さくらさくら」の楽譜 実物投影機 プロジェクタ
終末 3分	6 箏のよさを確認し、次時の予告を聞く。	○箏の音色などの特徴を振り返り、次時は箏の特徴的な奏法がたくさん入った曲「六段の調」を鑑賞することを知らせる。	

